



館蔵資料紹介 江戸時代の槍術防具

ここに紹介するのは、市民の方からご寄贈いただいた珍しい江戸時代の槍術防具です。

●槍術防具とは？

「一番槍」ということばがあるように、槍は古くから武門の象徴でした。江戸時代には上級武士を中心に学ばれ、多くの流派が興隆しました。

槍は相手を刺突する武器であるため、稽古には危険が伴いました。このため剣術よりも早く防具が発達しました。槍術防具が剣術防具と異なるのは、左肩から手先まで覆う部位があることです。これは左手を前に半身に槍を構えるため、相手側を向く左半身を守る必要があったためです。

●奉納された槍術防具

さて、この槍術防具は宮下町1丁目の寄贈者宅敷地内にある社に奉納されていました。江戸時代の川越城の西側に位置します。この社は鍛冶町の名主であった中島孝昌が享和元年(1801)に著した地誌『武蔵三芳野名勝図会』には、「鏡稲荷」として記されています。

この社から350mほど離れた城の北側には川越藩の軍制改革の一環として天保14年(1843)に設けられた蔵町稽古場がありました。もしかしたら、この槍術防具は技の上達を願う藩士の誰かがこの社に奉納したものかもしれません。

●槍術防具の製作者

この槍術防具には注目すべき点がもうひとつあります。胴の裏側に朱漆で「塗處 竹源」と製作者の銘が記されていることです。

万延元年(1860)に出版された『江戸武術英名録』には、「釵鎗道具師 江戸明神下 竹屋源次郎」の名があります。このことからこの槍術防具は江戸の防具職人竹屋源次郎によって作られたと考えられます。竹屋源次郎の系譜を引く職人たちは今も竹屋流剣道具師として各地で活躍しています。

(副館長 岡田賢治)



槍術防具 一具 江戸時代



胴裏朱書「塗處 竹源」

博物館ノート 戦争体験—語り継ぎたい平和の心—を実施して

当館では、昨夏の第 28 回収蔵品展にて、「戦中・戦後の川越の歩み」と題し、寄贈資料を中心に戦時の川越の様子をたどりました。その際、展示以外にも戦争を実際に経験された方から直接話を伺う機会を設けましたが、本年も 8 月 15 日の終戦記念日前の 12 日、お二人方にお越しいただき、貴重な証言をお聞きすることができました。ここでは、その概要をご紹介します。



講演会風景

語り継ぎたい私の従軍記憶 (山田伊佐さん)

山田さんは、昭和 2 年 (1927)、山田村南山田 (現在の川越市山田) のお生まれで、今年 92 歳です。昭和 17 年東京府北多摩郡小平村 (現在の東京都小平市) 傷痍軍人武蔵療養所附属看護婦養成所に入学、卒業の後、昭和 20 年 6 月に関東軍 15519 部隊入隊、金州陸軍病院配属、満州で従軍看護婦としての任務に就かれました。終戦の玉音放送は現地にて軍装で聞かれ、その後約 10 か月の捕虜生活を経て、帰国されました。この間、出征されてから帰国まで、17 歳から 18 歳にかけての激動の 1 年を 8 つの場面からお話いただきました。

①全国の国立病院、国立療養所より選抜された 120 名が下関に集合②須佐港より戦地に出発③釜山港に上陸④関東軍 15519 部隊、金州陸軍病院に到着⑤ 8 月 9 日、ソ連軍侵攻⑥ 8 月 15 日、終戦⑦三か月後に海城かいじょうに移動⑧葫蘆島ころうより病院船で博多港に上陸



山田伊佐さん (15 歳ころ)

戦中・戦後の鯨井における生活の様子 (加藤祐三さん)

加藤さんは、昭和 8 年 (1933)、名細村鯨井 (現在の川越市鯨井) のお生まれで、今年 86 歳です。昭和 15 年 4 月、名細南尋常小学校に入学され、学校は昭和 16 年 4 月から名細国民学校に改組、昭和 20 年の終戦時には国民学校 6 年の 11 歳でした。8 月 15 日は体調を崩し、布団に横になりながら玉音放送を聞かれたといます。戦中から戦後の復興まで、ご自身の生活を中心に 8 つの場面でお話いただきました。

①記憶に残る村総出の提灯行列②出征兵士の留守宅の畑の草取り、稲麦の収穫の勤労奉仕と坂戸飛行場の飛行機退避誘導路路肩の芝張り作業③北海道からの入植者たち④戦争激化と B 29 の襲来—白い飛行機雲—、そして霞ヶ関駅での機銃掃射⑤母の兄弟 3 人の出征⑥ 8 月 15 日前後⑦戦後の生活。家業の継承と 4H クラブ、青年団活動、名細消防団への入団⑧戦後の終わりの声の高まりと経済成長



加藤祐三さん (5 歳ころ)

今回の講演では、特に山田さんのお話の内容が想像を絶するものだったためかは分かりませんが、お話が終わった直後の質疑応答の際、会場が一瞬しんと静まり返っていたのが、とても印象に残る出来事でした。

戦後 74 年が経過し、戦争ご経験者の高齢化は進み、話をお聞きできる時間は限られてきています。また、話者の方は、過酷な戦争の実態を話すことは大変なご苦勞である中、戦争は絶対にしてはいけないことを伝えたいとの強い思いからお引き受け下さっています。平和な時代だからこそ、戦争を知り平和の尊さを想うことは大切と、今後も経験者の方々からお話を伺う機会を設け、記録の作成に努めたいと思います。

(教育普及担当 峯岸太郎)

イベントレポート 本丸御殿で子ども体験教室を行いました

当館で行われている子ども体験教室は多岐にわたり、現在では年間を通して20以上の教室を開催しております。子ども体験教室は通常、館内の体験学習室を利用して行われますが、いくつかの講座に関しては、当館が管轄している「川越城本丸御殿」を利用して行われております。文化財を利用した子ども体験教室は、体験の質を高めることにつながり、他ではなかなか味わうことのできない体験であると言えるでしょう。今回は、「川越城本丸御殿」を会場に使った子ども体験教室をご紹介します。

★子ども体験教室「和楽器体験－琴・三味線に挑戦－」

9月28日(土)に、和楽器体験を実施いたしました。琴は「川越市三曲会」の先生方、三味線は「秀ゆり会」の先生方を指導者としてお招きし、本丸御殿を会場に開催いたしました。和楽器の体験は15年前から続けている、長きにわたっている教室のひとつです。

この体験教室はリピーターの子もたちが大変多く、中には暗譜してしまうような子がいたり、「去年よりも上手になりたい」という強い意欲を見せて参加してくれたりした子もいました。

最後には先生方がミニコンサートを開催していただき、子どもたちや観光客の人々は先生の奏でる音の響きに心地よくなっていきました。

(教育普及担当 高田 迪穂)



和楽器体験－三味線・琴に挑戦－

Information

令和元年度の博物館行事です (3月まで)

展覧会・講座・教室 etc

●	一般向け事業	開催日・講座名
○	子ども向け事業	内容

1月	18日(土)～ 第30回 むかしの勉強・むかしの遊び展		
	○11日(土) 子ども体験教室 まゆ玉飾りを作ろう	●12日(日) 野外博物館教室 南大塚の餅つき踊り	●25日(土) 大人体験教室 縄文土器作り教室
2月	第30回 むかしの勉強・むかしの遊び展		
	○1日(土) 子ども体験教室 はにわクッキーを作ろう	9日(日) むかし展関連事業 なつかしい昭和の自動車	○15日(土)/22日(土) 子ども体験教室 むかしの道具を使ってみよう
3月	～1日(日) ← 14日(土)～5月10日(日) 第48回企画展 川越の地口行灯(仮題)		
	●8日(日) 博物館歴史講座 川越の民俗①	●15日(日) 博物館歴史講座 川越の民俗②	●22日(日) 博物館歴史講座 川越の民俗③
	○7日(土) 子ども体験教室 和紙作りに挑戦	○14日(土) 子ども体験教室 わら細工に挑戦	

第30回「むかしの勉強・むかしの遊び」展

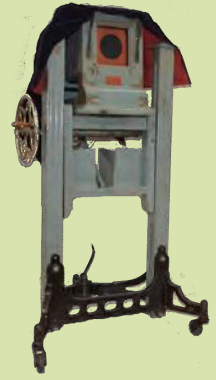
会期 令和2年1月18日(土)～3月1日(日)

毎年恒例の「むかしの勉強・むかしの遊び展」の季節がやってきました。

今回の展示では、昭和初期に写真館で使用されていたアンソニーカメラを中心に、蛇腹カメラからフィルムカメラ、デジタルカメラへと変遷を遂げてゆくカメラの歴史について、展示します。アンソニーカメラは、シャッターを押すまでもに様々な準備が必要で、写真を撮るのも一苦労でした。シャッターボタンを押せば写真が撮れる現代のデジタルカメラに比べて大変手間のかかるものでした。カメラの変遷から見ても、私たちの生活が日々便利なものになってきたことがうかがえます。

また、同展では、川越に鉄道が開通した明治の時代から、自動車の交通が盛んになった昭和の時代までを主な時代区分とし、川越の町の様子や人々の暮らしの変遷がわかるような展示構成にしています。

展示を通して、古き良き時代へのタイムスリップをお楽しみください。



アンソニーカメラ

利用の御案内

◆入館料

区分	博物館	川越城本丸御殿	川越市蔵造り資料館	共通入館(観覧)券		
				●博物館 ●美術館	●博物館 ●本丸御殿 ●美術館	●博物館 ●本丸御殿 ●美術館 ●まつり会館
一般	200円 (160円)	100円 (80円)	休館中	300円	370円	600円
大学生 高校生	100円 (80円)	50円 (40円)	休館中	150円	180円	400円

※()内料金は、団体[20名以上、1名につき]の場合

◆開館時間 午前9時から午後5時まで(ただし入館は午後4時30分まで)

◆休館日 月曜日(休日の場合は翌日の火曜日)

第4金曜日(休日を除く)年末年始(12月29日～1月3日)

館内消毒(6月下旬)

*開館時間・休館日は、博物館・川越城本丸御殿とも原則として同じ

(館内消毒は博物館のみ休館)

*蔵造り資料館は、耐震化事業のため令和2年度末(予定)まで休館いたします。

◆ガイド ○博物館 平日(開館日)午前11時・午後2時 土・日・祝日午前11時・午後1時・午後2時・午後3時
※予定を変更させていただく場合もありますので、ガイドを御希望の方は、博物館までお問い合わせください。

○川越城本丸御殿 毎月第2・第3日曜日 午前11時～12時・午後2時～3時

◆機織り実演・体験(協力:博物館同好会)

○博物館 毎週火・水曜日 午後1時～3時 華の会(裂き織り)

毎週木・日曜日 午前10時～午後3時(12時～1時はお休み) 川越唐棧手織りの会

※予定を変更させていただく場合もありますので、詳しくは、博物館までお問い合わせください。



令和2年

1月							2月							3月								
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土		
			①	②	③	4						1	1	②	3	4	5	6	7			
5	⑥	7	8	9	10	11	2	③	4	5	6	7	8	8	⑨	10	11	12	13	14		
12	13	14	15	16	17	18	9	⑩	11	12	13	14	15	15	⑪	16	17	18	19	20	21	
19	⑫	21	22	23	⑭	25	16	⑬	17	18	19	20	21	22	22	⑮	23	24	25	26	⑯	27
26	⑰	28	29	30	31		23	⑱	24	25	26	27	⑳	29	29	⑳	31					

○印は、2館休館(博物館、本丸御殿)

◆交通案内

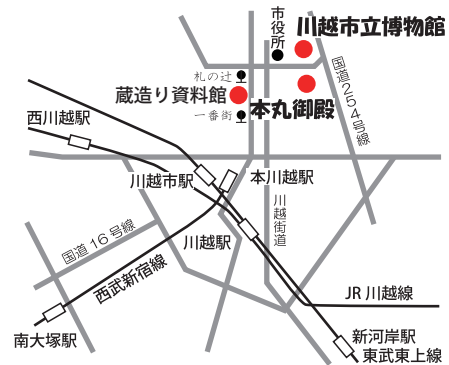
東武東上線・JR川越線 川越駅より

または西武新宿線 本川越駅より、

●東武バスにて「蔵のまち経由」乗車札の辻バス停下車徒歩10分、または「小江戸名所めぐり」乗車博物館前バス停下車すぐ

●イーグルバスにて「小江戸巡回バス」乗車博物館・美術館前バス停下車すぐ

※ご来館の際は、なるべく電車、バスをご利用ください。



博物館の最新情報をパソコン又は携帯電話へ配信します

メール配信を希望される方は、川越市ホームページのオンライン「メール配信サービス」から「博物館メール配信」の登録を行ってください。携帯電話では、右のQRコードから登録の手続きができます。毎月25日に最新の情報を配信します。

※登録料および情報提供料は無料ですが、インターネット接続やメールの受信等にかかる費用は利用者の負担となります。



発行日◆令和元年12月12日 発行◆川越市立博物館

〒350-0053 川越市郭町2丁目30番地1

TEL 049-222-5399

FAX 049-222-5396

Eメール hakubutsukan@city.kawagoe.saitama.jp

ホームページ http://museum.city.kawagoe.saitama.jp/